

第3学年5組 道徳学習指導案

- 1 主題名 本当の友情【B-8 友情、信頼、C-10 遵法精神、公德心】
資料名 「期末テスト」(自作教材)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

社会の中にはさまざまなルールやマナーがあり、それを守ることで、社会の秩序や利益が保たれ、安全で気持ちの良い生活を送ることができる。しかし、生徒たちは社会や学校のルールやマナーを「守るべきだ」と考えながらも、個々の欲や情を優先してしまうことがある。些細なルールであれば無視しようとする傾向もあるが、誰もがそのような気持ちになれば社会は軽薄で混乱したものになってしまう。

また、法律のように罰があるからきまりを守るというものもある。しかし、社会や学校のマナーやルールには、そういった厳格な罰がない場合も少なくない。

さらに、友情や愛情といった、人が社会生活を営む上で不可欠な感情と天秤にかけなければならない事態も存在する。そういった場面においてどのような判断をすることが正しいのか。一人一人が社会の利益を守ることで、社会全体により影響があるのだという考えをもとにした、基本的モラルや倫理観を育成したいと考える。

この資料の大きなねらいは、集団や社会のルールを尊重することの大切さに気付き、友情を大切にしながらも、ルールを守ることができる判断力を養うことである。主人公と友人の立場から公德心と友情の葛藤問題に取り組み、それを解決する仕方を適切に判断する力を養うことである。ややもすると、面倒なことにはかかわりたくないと考える生徒もいる中で、公德心をしっかりもち、相手の心情にも配慮しつつ、きちんと注意できるようになることが大切であると考え。

(2) 生徒の実態 (在籍38人)

社会の中で守るべききまりやマナーについては、生徒たちも頭では理解している。しかし実際に、自分ではなく社会全体の利益を優先させなければならぬ場面に直面したときに、正しい判断ができる生徒は少ない。

その要因としては、社会全体の利益を優先することの良さを実感するような体験の少なさが挙げられる。また、友人関係が絡んできて、問題解決がより難しくなることもある。

これから3年生は、義務教育最終学年として進路選択をするという大きな責任が生じてくる。そのため、この時期にしっかりとした規範意識を身に付けさせ、よりよい学校生活を送ろうとする意識の向上を図りたいと考えた。

(3) 資料観

この資料は、友人の健太がカンニングするのを目撃してしまった主人公の勇樹が、先生に報告すべきか、それとも黙っておくべきかで葛藤するものである。勇樹が葛藤する心情について考え、友情のあり方とカンニングの是非の両方について考えることができる。

この問題場面では、健太との友情だけ考えて先生に告げ口をせず、見なかったことにしてしまえば、誰も嫌な思いをすることなく穏便に済ませることができるかもしれない。しかし、そうやって自他を欺く行為をすることが、本当に自分や友人のためになるのか、今後よりよく生きることにつながるのかを深く考えられるようにしたい。

また、友情と公德心の葛藤を感じさせることから、それでもその選択から逃げずに、正しい判断をすることの大切さについても考えさせたい。友情と公德心は決して矛盾するものではなく、よりよい友情を保つために相手に注意することも大事であることに気づかせたい。

ルールは集団全体のためにあるものであり、個人的感情でそれを破ってしまうことが繰り返さ

れると、社会が成り立たなくなる。逆にルールを守ることは個人の権利を守ることにもつながり。さらには誰もが気持ちよく生活できることを実感させ、ルールを守ることの大切さや生き方について考えさせたい。

(4) 指導観

生徒の実態をふまえ、ねらいを達成するために、指導に当たっては次のように工夫していく。

①導入の段階

○導入時に、本時のテーマに迫る価値の確認をする。

②展開前段の段階

- 資料は内容を理解しやすいように短くし、さらに場面が想像しやすいように挿絵を活用する。
- 板書に「カンニングを見てしまった主人公はどうすべきか」を分類して表示する。また、それぞれの判断の決め手となった価値の判断基準を明確にする。

③展開後段の段階

- 思考の場面では、ペアトーク、グループトーク、クラストーク等を取り入れ、道徳性の異なる生徒同士（意図的な班編成）をできるだけたくさん交流させ（協同学習）、思考を深める。
- 発表の場面では、ホワイトボード紙を使用し、思考の可視化を図る。
- 自分の考えをもたせ、それを集団の中で表現させ、互いの良さを感じ合えるような学習展開を意識して行う。

④終末の段階

○自分の考えを書いたり発表したりしやすいように、班での話し合いを活発にして、誰でも自由に発言できる支持的風土作りをしていく。

生徒の実態	個や集団に応じた支援
・きまりは守らないといけないことは知ってはいるが、友達関係を優先してきまりを守らないことがある生徒が数名いる。	よい友情関係を保つために、相手に注意することも大事であることに気づくような問いかけを行う。
・自分の意見を明確にすることが苦手な生徒が数名いる。	学習シートに自分の意見を書く時間を確保し、班での交流がスムーズになるようにする。
・人の意見を傾聴するのが苦手な生徒が数名いる。	ホワイトボード紙に出た意見を書き出し、（思考の可視化）、よりよい解決策を話し合う。
・間違っことは言っていないのに、相手にうまく伝えられない生徒や、強い言い回しになってしまう生徒がいる。	単にきまりだからダメとするのではなく、皆が納得するような言い方がないかを考えられるようにする。（協同学習）

(5) 人権教育の視点

- 全員で協力することの意義を確認し、仕事の役割分担を確実にを行うようにする。
- 多様な意見を学び、自分と異なる意見も受け入れられるような支持的風土作りをする。

3 主題の目標

よりよく生きるために、友だちとの友情や信頼を大切にしながらも、ルールを尊重して守ることが実は自分や友人のためになり、今後の自分の友だちとのかかわり方や生き方につながることを考えることができる。

4 本時の学習

(1) ねらい

集団や社会のルールを尊重することの大切さに気付き、友情を大切にしながらも、ルールを守ることができる判断力を養う。

(2) 授業づくり5つの視点

視点1	子どもの実態に即し、本時のねらいに迫るめあてを示している。	資料を読む前に、考えるべきことを提示しておく。
視点2	授業に見通しと振り返りがある。	導入の段階において、学習前段階での自分の価値観を押さえておく。
視点3	本時のめあてに迫る子どもたちの主体的活動がある。	協同学習を取り入れ、発表を行うことで子どもたちの主体的活動を活性化させる。
視点4	学習意欲を高めたり、理解させたりするための工夫がある。	身近にありそうな資料を提示することで、自分の立場に置き換えて考えられるようにする。
視点5	子どもを認め、生かす場面がある。	役割演技をすることで、互いに認め合う場面を設定する。

(3) 展開

過程	学習活動	形態	教師の支援 (○) 及び評価 (*)	備考
導入 5分	1 本時のテーマについて今の価値観を確認する。	一斉	<p>○学校にはどんなルールがありますか。 ・遅刻禁止 ・私語厳禁 ・服装</p> <p>○ルールについて、学習前段階での自分の価値観を押さえておく。</p> <p>○それらのルールにどんな意味がありますか。 ・みんなを守るため ・よりよい学校生活を送るため ・集団の秩序を維持するため</p> <p>○今日は、主人公の大親友が起こした大きな問題に対し、主人公が深く悩みます。どのような判断をしたら良いのか、みんなが納得できる答えを見つけましょう。</p> <p>○いろいろな意見を聞いて、みんなで納得するための話し合いであることに注意する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">視点1</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">視点2</div>
展開 前段 20分	2 資料を読んで、話し合う。 (1) 勇樹の判断について考える。 (2) 優先順位を考える。	<p>個</p> <p>一斉</p> <p>個</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">問題解決的な学習</div> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">勇樹は、この後どうするとよいでしょうか。</div> <p>・A案…健太を説得し、一緒に先生のところについていく。 ・B案…健太には注意するが、先生には言わない。 ・C案…健太には何も言わず、先生にだけ言う。 ・D案…健太にも先生にも何も話さない。</p> <p>○板書に、健太を大切に思う勇樹の心情とルールを守らなければいけないのではという葛藤を押さえる。</p> <p>○D案の生徒に対し、「受験の時に健太が同じことをしてしまいそれが発覚して受験に失敗してしまったら」という問いかけをする。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">これらに順位をつけ、その理由も考えましょう。 〈深める発問〉</div>	<p>資料短冊</p> <p>学習シート</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-top: 10px;">視点4</div>

		<p>班</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A→C→D→B 駄目なことは駄目と伝える。 ・先生に言うべきだが、友情が壊れそう。 ・健太に注意して、自分で先生に言うように仕向けるようにするのが本当の友情だ。 <p>○根拠を明確にして意見を発表できるよう、学習シートを活用する。</p> <p>○友だちの意見をしっかり聞き、それを受けて発言できるようにする。</p> <p style="text-align: right;">意図的な班編成</p> <p>一斉</p> <p>○個人で考えた後、班での交流に移る。その際、ホワイトボード紙に出た意見を書き出し、よりよい解決策を話し合う。</p> <p style="text-align: right;">思考の可視化</p>	<p>ホワイトボード紙</p> <p>視点3</p>
展開後段 20分	<p>(3) よりよい解決策を考える。</p> <p>わかぼうタイム</p> <p>意図的に編成した班での協同学習</p>	<p>班</p> <p>問題場面で、勇樹は健太にどのような言葉をかえればよいか、自分で考えた言葉を使って役割演技をしましょう。</p> <p>一斉</p> <p>○単にきまりだからダメとするのではなく、皆が納得するような言い方がないかを考えられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本当に友だちだと思っているから、健太に言いたいんだ。頼むから二度とやらないでくれ。 ・一緒に付いていくから、先生に正直に言おう。 ・そんなことで健太がズルい奴と思われるのは嫌なんだ。だから素直に謝りに行こう。 <p style="text-align: right;">*評価①</p>	<p>視点5</p> <p>ホワイトボード紙</p>
終末 5分	<p>4 今日の授業を振り返る。</p>	<p>個</p> <p>○今日の授業でどんなことを考えましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友情は大事なものだけど、相手の成長を考える場合は、時につらいことでも勇気をもって言わなければならない。 <p style="text-align: right;">*評価②</p> <p>○展開の話し合いが日常生活にも反映するように、学んだ内容を確認する。</p>	<p>学習シート</p>

(4) 本時の評価

*評価①：本当の友情とは何かを考え、よりよい解決策を具体的に考えている。

*評価②：きまりを守ろうとする具体的な決意や新たに気づいたきまりやルールの意義などを書いている。

道徳ノート「期末テスト」 月 日 名前

Q1 学校にはどんなルールがありますか。また、どんな意味がありますか。

Q2 勇樹は、どうすればよいと思いますか。

解決策	長 所	短 所	順位
A 案			
B 案			
C 案			
D 案			

Q3 勇樹は、健太に何と言えばよいでしょう。また健太は、それに対してどう答えるでしょう。

(勇樹の言葉)
(健太の言葉)

刈

今日の授業を振り返りましょう。(4:よくできた 3:できた 2:あまりできなかった 1:できなかった)

① 資料で、登場人物の立場になって考えることができた。	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
② 資料で、自分だったらどうするかを考えることができた。	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
③ 自分の考えをもち、書いたり発表したりすることができた。	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
④ 授業の終わりに、これからのめあてを見つけることができた。	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
⑤ 今日の学習で「本当の友情」について、考えたことを書きましょう。	

期末テスト

(一部改作)

奥野康成

勇樹と健太は、隣同士に住む幼稚園からの幼なじみである。家族ぐるみで付き合いもあり、2人は兄弟のように育ってきた。そんな2人は、中学3年になった今でも、一緒に登下校をしている。昨日見たテレビの話や、その日にあったことを互いに話すことが、2人にとって幸せな時間であった。

6月になり、3年生になり初めての期末テストが近づいてきた。いつものように健太は勇樹に話しかける。

「勇樹、今度の期末テスト、何点くらい取れそう。」

「俺はがんばっても150点くらいかな。健太は。」

「俺はもうバッチリだ。いつでも来いって感じだよ。」

勉強については自分と同じくらいだと思っていた健太からの強気な言葉に、勇樹は受験生としての意識が足りなかったのだとあせりを感じた。そして、その日から勇樹はいつもより長く勉強し、期末テスト当日を迎えた。

これまでの努力の甲斐もあって、勇樹は順調に問題を解いていた。

「そういえば、健太はどんな調子だろう。」

すべてを解き終えた勇樹は、ふと、斜め前に座っている健太の様子が気になった。健太のほうに目をやると、健太が何やら机の中に手を入れ、ごそごそと動いている。

「健太のやつ、何やってんだ・」

勇樹は、健太の様子を不思議に思いながら見ていた。次の瞬間、勇樹は一気に緊張した。健太は、小さな紙切れを手の中に隠し、それを見ながら答えを書いていたのだ。

「カンニングだ……」

勇樹は、健太が明らかにカンニングをしているところを目撃してしまったのだ。

「これは先生に言うべきか…でも、そうすると健太は罰則で、点数が0点になってしまう……そんなことになったら、俺と健太は……親友のままでいられるだろうか……」

そんなことをぐるぐると考えているうちに、テストの時間が終わった。

終了のあいさつをすると同時に、健太がいつものように勇樹のところに向かって歩いてきた。いつもなら、勇樹も歩み寄るが、今は健太のほうをまっすぐ見ることができない。健太は勇樹に向かってさらりと言った。

「勇樹、テストどうだった。」